研究開発

DAIKENグループはR&Dセンターを中心に「リジェネラティブな社会の実現」を目指して、社会課題解決につながる新たな価値創造と次世代を担う新技術・新事業の展開を目指した研究開発を進めています。また、未来を見据えた研究開発のスピードアップと領域拡大を図るため、さまざまなステークホルダーとの共創活動にも積極的に取り組んでいます。

研究開発理念“「未踏」への先駆け”に基づく方向性

DAIKEN R&D Vision

素材に技術革新を起こして資源がめぐる社会に

資源の可能性を最大限に引き出し、暮らしと環境に寄り添う素材の技術開発を通じて、持続的に循環する社会を築く

研究領域

植物由来素材の活用　未利用資源の開拓
自然環境の再生・保全　建築プロセスの再設計

ココロとカラダを科学して ここちよさを日常に

人・モノ・空間を科学的に分析し、暮らしに新たな価値をもたらすモノづくりと空間設計で、一人ひとりに快適な日常を届ける

研究領域

快適な室内環境の創出　暮らしの音デザイン
健康を支える環境設計　安全性をかたちにする設計

新たな価値創造を発信する研究施設「R&Dセンター」

持続可能な価値創造を目指す新規事業の推進

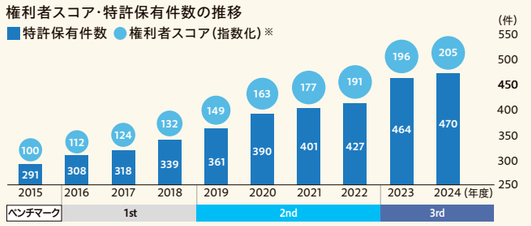
次世代事業開発担当では、既存事業の深掘りと新規領域の探索をテーマに、新規事業開発を進めています。他社との共創、自社の強みの再認識、社内ベンチャー制度など、さまざまな事業開発手法を駆使し、新たな事業を迅速に生み出すことを目指しています。不確実性の高い外部環境でも、経験や勘に左右されないスキームを構築しつつ、既存事業の枠にとらわれない柔軟な活動を行います。開発を推進し、社内外と広く連携することで、「新たな価値」の創造と「新たな事業」の創出に取り組んでいきます。

異業種とのアイデア創出

持続的成長を支える、戦略的な共創と価値創出型知財

知的財産部門では、新たな価値を権利化し、事業の利益を守る管理担当と新技術・新事業の実現に向けた新しい価値創造に貢献する戦略担当が一体となり、経営資源である知的財産を防御の手段にとどめず、事業成長をけん引する戦略的資産として活用することに力を入れています。さらに、2025年4月には特許の質と量を増強することに加え、発明者の意欲を高めるため、知財報奨制度を7年ぶりに改定しました。今後は、知財戦略を立案し、経営・開発の方針と連携させることで、当社の事業サイクルを内側から支え、拡大を目指す「価値創出型知財」を実現していきます。

権利者スコア・特許保有件数の推移



※権利者スコア：保有する特許群全体の価値を評価する指標の一つ。右のグラフでは、経年変化を示すため、ベンチマークの2015年度を100として指数化して表示しています。
(株)パテント・リザルト「Biz Cruncher」を用いて作成。

DAIKEN R&D Visionに紐づく取り組み

研究領域
「植物由来素材の活用」

木質由来の接着剤を用いた環境配慮型MDFの製造技術を確立

当社では創立当時から木材を余すことなく有効活用する素材・建材の技術開発を行っています。2019年からは、「石化原料を使用した接着剤」などを一切使用しない、環境配慮型MDFの製造技術確立に向けた取り組みを進めており、2022年度には「木質由来成分からなる接着剤」を用いたMDFの試作に成功しました。2025年度中に天然資源比率98%のMDFを市場投入することを目標としており、現在は仕様の確立・量産体制の整備に向けた試作を実施しています。さらに、これまで使用されていなかった木質資源の原料化技術に関する技術にも着手しており、当社のMDF事業がこれまで以上に環境負荷低減やカーボンニュートラルに貢献できるよう、取り組みを強化していきます。

木質由来の接着剤

アカシア樹皮

研究領域
「暮らしの音デザイン」

新たな音響技術の開発設計拠点『音環境ラボラトリー（音ラボ）』

当社では、素材の可能性を追求するだけでなく、素材や建材に新たな機能を付加し、快適な空間づくりを目指した研究開発にも取り組んでいます。なかでも、快適性の重要な要素である「音」に着目し、40年以上にわたる建築音響製品の開発・製造・販売の実績を活かして、「音環境ソリューション事業」を展開してきました。シミュレーション技術や測定技術を駆使し、公共・商業建築分野を中心に音環境の課題解決に貢献しています。さらに、音響事業の拡大を見据え、2025年11月には新たな開発拠点『音環境ラボラトリー（音ラボ）』が竣工予定です。JIS規格に準拠した高精度な測定や吸音・遮音性能、床衝撃音などの性能評価が可能な設備を導入し、音響技術の高度化と快適な空間設計の実現を加速させていきます。

『音ラボ』外観イメージ

音ラボ

Voice of Executive

当社は創立以来、環境に配慮した数多くの素材・建材の開発を行い、常に業界をリードする存在として研究開発に力を注いできました。数あるサステナブル素材のなかで、近年最も大きな成果の一つがR&Dセンターにおける基礎研究から誕生した新木質ボード『DIO woodcore※2026年春発売予定』です。本製品はこれまで品質面から代替が困難だったラワン合板の代用品として注目を集めており、現在はカナダに拠点を置くDNAL社で量産に向けた準備が進められています。

当社の研究開発は、単なる素材や建材といった「モノ」の開発にとどまりません。次期長期ビジョンの軸となるウェルビーイングへの貢献やソリューション提案といった「コト」の提供を支えられるよう、研究領域を拡大し、快適な空間づくりに寄与する多様なテーマに取り組んでいます。その一環として2025年11月には『音ラボ』の竣工を予定しており、新たな音環境ビジネスの創出に向けたプロジェクトを始動します。音環境の改善は生活の質を高める重要な要素であり、東アジアをはじめとする新興国においても音トラブルに対する関心が高まっていることから、防音建材の需要拡大が見込まれています。日々変化する国内外の生活空間改善ニーズに応えるため、音環境をはじめとした「ここちよさ」に関する研究開発にも注力し、より快適でサステナブルなくらしの実現を目指していきます。

執行役員 CTO
竹原 章宏